九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

The subjective continuity and discontinuity of crossing glide tones

黒田, 剛士
Faculty of Design, Kyushu University

https://doi.org/10.15017/16819

出版情報：九州大学, 2009, 博士（芸術工学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：

謝辞

本論文の執筆において以下の方々からご支援いただいた。深く感謝する。

中島祥好先生には，指導教員として研究に関してご指導いただいた。また，学生生活全般をご支援いただいた。

白石君男先生，伊藤裕之先生には，本論文の執筆に関して貴重なご意見をいただいた。

上田和夫先生には，研究に関して貴重なご意見をいただいた。また，国際学会での発表の練習にお付き合いいただいた。

綱島慎平氏，安武達朗氏には，参考論文を執筆する際に，共著者としてご協力いただいた。また，両氏は，本論文の申請のために参考論文を提出することに快く同意してくださった。

江口俊太朗氏は，同氏の修士論文のデータを本論文の一部として記載することに快く同意してくださった。

蓮尾絵美氏，杉岡沙恵氏には，本論文の校正をしていただいた。また，読みにくい箇所をご指摘いただいた（それでも本論文の中に誤りや読みにくい箇所があれば，それは全て著者の責任である）。

中島研究室の方々には，現役生，卒業生ともに含めて，研究，生活，あらゆる側面においてご支援いただいた。特に，蓮尾絵美氏には，研究室内外における事務的作業を多々お手伝いしていただいた。

シニアセミナーの方々には，研究に関して貴重なご意見をいただいた。

家族は，博士後期課程に進学することに快く同意してくださった。杉岡沙恵氏には，家族と同様に日々の生活をご支援いただいた。

本論文の実験は，通常の知覚実験に比べて格段に時間のかかるものであり，実験に参加してくださった方々に格別の感謝をしたい。

本論文に関わる研究成果は，小さな出来事の積み重ねによって得られたものである。振り返って見れば，研究に直接関わりのないことでさえも研究活動を促進している場合がある。したがって，ここに記した方々よりもはるかに多くの方々にご支援いただいたことを理解している。しかし，その全てを間違いなく記す自信はない。ここに謝意を表すことで，お許しいただきたい。

最後に，この長い論文を読んでくださった読者に感謝したい。諸所の情報に新たな研究題材の隠れていることに気づいていただけるように執筆したつもりである。本論文を読むことで新たな研究が着想されたのであればこの上ない幸せである。第 2 章において細かな物理量を記載したのは，この目的のためでもある。この章に記した物理量，および知見にどのような関連性が潜んでいるのかを探りながら読むことで，この章に対する見方が変わるかもしれない。